

## 旧中島飛行機武蔵製作所変電室建物の保存を要望する決議

東京都武蔵野市緑町 2 丁目の都営武蔵野アパート建替えに伴い、都立武蔵野中央公園の拡張用地となった地域に、中島飛行機武蔵製作所の変電室だった建物が残っている。

中島飛行機武蔵製作所は、「零戦」「隼」などの軍用機用エンジンの製造工場として、最盛期には 5 万人といわれる人々が 24 時間操業で働き、日本の軍用機用エンジンの 30% 近くを製造する大工場であった。同工場は、まず 1938 (昭和 13) 年、北多摩郡武蔵野町西窪 (現在の緑町) に陸軍専用工場として「武蔵野製作所」(のちの東工場) が開設され、次に 1941 (昭和 16) 年、西側に隣接する同町関前 (現在の八幡町。都立武蔵野中央公園の場所) に海軍専用工場として「多摩製作所」(のちの西工場) が開設されたが、やがてアジア太平洋戦争の戦局が悪化する中、1943 (昭和 18) 年に両工場が合併してできた工場である。ここで製造されたエンジンは、群馬県にあった同社の太田製作所や小泉製作所に輸送され、軍用機として完成された。中島飛行機武蔵製作所は、その重要性の故に、大戦末期の 1944 年 11 月 24 日に始まるアメリカ軍によるマリアナ諸島からの日本本土空襲では、最重要目標として最初の爆撃目標とされ、以後、日本の降伏までに、実害があっただけで 9 回もの爆撃を受け、工場内で 200 名以上、周辺の市民は数百名が犠牲となった。

同工場の建物は、戦後、鉄筋コンクリート構造の建物の多くは再利用され、東工場北部の組立工場は NTT 電気通信研究所 2・3 号館となり、西工場は米軍住宅グリーンパークとなったが、いずれも解体され、今回の旧変電室が最後まで残った唯一の建物である。

今回、解体の対象となっている旧変電室は、1938 (昭和 13) 年に武蔵野製作所が開設された当時の建物の一部であり、工具工場の変電室だった建物である。南北方向に約 18m、東西方向に約 9m、高さが 7.6m あり、敷地面積は約 162 m<sup>2</sup> (50 坪)、鉄筋コンクリート構造の 2 階建ての長方形箱型の建物である。太い柱や梁の構造、梁と天井部にアーチを施すなどの特徴を持つ。戦後、1953 (昭和 28) 年、都営武蔵野アパートが開設された際、改修工事を施され、管理事務所棟となった。近年では、都営アパート自治会などの倉庫として使用されてきた。

さらに注目すべきことは、この旧変電室が、工場のほぼ中心部に位置し、幾度かの爆撃に際しては、アメリカ軍が「爆撃照準点」を設定した場所に近接していること、また、戦後撮影された廃墟の写真に、旧変電室の特徴である南面 2 階のみにある二つの窓を確認することができるため、旧変電室は中島飛行機武蔵野製作所工場の唯一残存する記念物「ランドマーク」となる建物である。

武蔵野市は、2011 年に「武蔵野市平和の日条例」を制定し、「戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代に語り継いでいくとともに、市内に初空襲があった昭和 19 年 11 月 24 日を後世に伝えていくため、ここに武蔵野市平和の日を定め、市民とともに国際相互理解の推進に努め、恒久平和の実現を目指すことを誓う」としている。この趣旨から言っても、旧変電室の存在は、より戦争と平和を考えるきっかけを与えてくれるものとなる。すでに東大和市旧日立航空機立川変電所は空襲と軍需工場の実態を語る、市指定史跡として平和学習に保存活用されている。

東京都および武蔵野市に対し、以上のような歴史的な事実と趣旨を踏まえ、旧変電室を存続させ、保存活用するよう、強く要望する。

以上、決議する。

2013 年 8 月 18 日

## 第 17 回戦争遺跡保存全国シンポジウム岡山県倉敷大会

東京都知事 猪瀬直樹 殿

武蔵野市長 邑上守正 殿